

PRAEVIDENTIA DAILY (11 月 26 日)

昨日までの世界：ドル/円と豪ドルはトレンドが継続したが、欧州通貨が反落

昨日は、ドル/円の上昇トレンドと豪ドルの下落トレンドは続いた一方、欧州通貨は一転して対ドルで下落、結果として主要通貨では対 NZ ドルを除き米ドルはほぼ全面的に上昇する展開となった。特にポンドは、英住宅ローン承認件数が大幅増の予想に反して 4.2808 万件と前月を下回ったこともあって大きく反落、対ドルで早朝の高値である 1.6240 ドルから一時 1.6134 ドルへ下落した。

ドル/円は、東京仲値時間近辺からドル上昇が速まり、欧州時間にかけて一時 101.92 円と 102 円に迫る水準へドル高円安が進んだ。その後、NY 時間には米中古住宅販売成約件数が前月比で-0.6%と予想外のマイナスとなり、ドル/円は米長期債利回りと共に小反落、更に引けにかけて米株価が反落したことも、101.40 円近辺への調整に繋がったがすぐに 101 円台後半を回復しており、今のところドル/円の上昇トレンドは維持されている。なお、英米の住宅指標は共に前月計数が上方修正されており、当月分の予想比悪化の影響を相殺するとみられ、持続的影響はもたないだろう。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.4	+0.00	+0.00	-0.00	-0.03	-0.01	+0.02	-0.1	+1.5	-0.7	-0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.3	-0.01	-0.01	+0.00	-0.01	-0.02	-0.01	+0.5	-0.1	-0.1	+0.05
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.4	-0.00	-0.00	+0.00	-0.01	-0.02	-0.01	+0.3	-0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	-0.01	-0.01	+0.00	-0.03	-0.04	-0.01	-0.1	-0.5	-0.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	+0.03	+0.03	+0.00	+0.04	+0.02	-0.01	-0.1	-0.5	-0.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.3	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	-0.01	-0.02	-0.1	-0.7	-0.0	

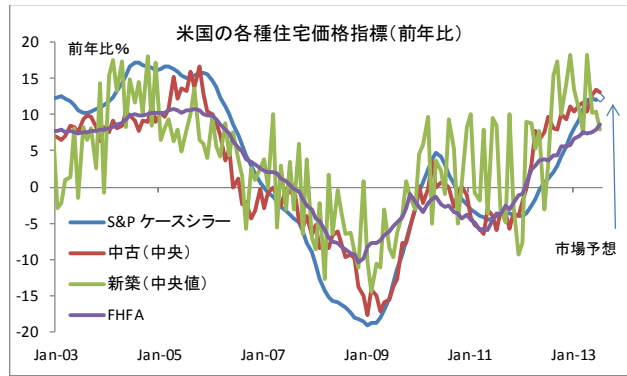
(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：BoE のテーパリングの議論は始まるか？

本日の相場材料としては、①Carney・BoE 総裁、Bean 副総裁、Dale 委員（チーフエコノミスト）、Broadbent 委員議会証言（19：00）、②米9月、10月建設許可件数（22：30、9月分の市場予想は93.0万件、8月分は92.6万件。通常同時に発表される住宅着工件数は12月18日に延期）、③米9月S&Pケースシラー住宅価格指数（23：00、前月+12.8%、市場予想+13.0%、前年比）、④米11月カンファレンスボード消費者信頼感指数（0：00、前月71.2、市場予想72.5）、⑤NZ10月貿易収支（6：45、前月-1.99億NZドル、市場予想-3.5億NZドル）、などが予定されている。

米国経済指標では消費者信頼感指数が注目される。米国の消費動向を巡っては小売売上高が市場予想を若干上回ったり、雇用環境も改善が継続、住宅価格や株価といった資産価格の上昇やガソリン価格低下が継続するなど追い風となる材料ばかりにも拘らず、消費者信頼感だけが悪化を続けており、既に11月分が発表されたミシガン大消費者信頼感指数は前月の73.2から72.0へ続落していた（下図を参照）。但し今回カンファレンスボード分は小幅ながら改善が予想されていることから、実際に前月分から改善が確認されるとドル買い圧力を強めるだろう。この間、S&Pケースシラー住宅価格指数は9月分と速報性に欠けるが、前年比伸び率は更に高まる見込みとなっており、為替相場を大きく動かす材料ではないが追加的なドル支持要因と言える（下図を参照）。ドル/円は引き続き、材料がない時間帯にドル高円安が進行し103円を目指す展開となる可能性が残っている。

なお、英国ではCarney総裁はじめBoE金融政策委員の主要メンバーがインフレ報告と景気見通しについて議会証言を行うこととなっている。これまで米国で議論が先行しているものの、景気が良好にも拘らず殆ど議論が始まっていないBoEの量的緩和縮小の議論が英国の住宅バブル問題と絡めて触れられるようだと、ポンドが再び上昇基調に戻る可能性がある。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社 関東財務局長（金商）第 2733 号